

全国ネット通信

佐賀平野とオランダ（Nederland）

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長 高田 研

明治日本の産業革命遺産に関わる仕事で今年は佐賀を訪ねました。佐賀平野は低湿地が広く分布し、古くよりクリークと呼ばれる農業用水路が複雑に発達し、その間を小舟で行き来する農業景観を形成していました。現在は耕地整備が進み、いくつかの公園にその面影を留めています。

昨年度、堺市立日置荘小学校6年生へ自転車のまちづくりをテーマに気候変動教育を実施しました（HP 掲載予定）。その動機づけの授業で私がオランダの自転車道路の事例を紹介しました。オランダでは1000年も前から干潟を嵩上げし排水用の小川をめぐらせ、そこに風車を配置してポルダー（干拓地）を広げてきました。入り組んだ水路が走る古いポルダーとクリークの景観はとても似ています。

オランダはこの干拓によって広げられた海拔0メートル地帯が国土の28%もあることから、温暖化による海面上昇のリスクに晒されています。環境問題に早くから取り組み、1990

年に作られたマスタープランに基づき3万5千キロの自転車レーンから完全分離した自転車専用レーンが整備されました。現在では国民1人あたり3km/日自転車を利用しているそうです。

佐賀平野も4割近く0メートル地帯があります。オランダのことは人ごとではありません。産業革命遺産の話に戻せば、幕末に佐賀藩はオランダから鉄製大砲の鑄造技術を学び、1852年に初の国産化に成功します。戊辰戦争で薩長が使用した大砲の多くは佐賀で作られました。つまり日本の産業革命＝化石燃料利用の一端をオランダから学んだわけです。しかしその化石燃料が原因で現在までに平均気温が1℃を超えたのです。

この気候変動による海面上昇のリスク回避のために、佐賀は脱炭素先進国オランダから再び学ぶ必要があるのではというのがストーリーです。



1998 オランダ・アイセル湖堤防上の自転車道路にて筆者

新役員体制と抱負

高田理事長（重任）：地域センターの皆様の期待に応えて脱炭素戦略の頼れるパートナーになることを目指していききたいと思います。

福岡理事（重任）：みんなで共に描く“持続可能な脱炭素社会”を目指します。Think Future Act Now！

藤木理事（重任）：いよいよ正念場ですね。ネットワークを生かし、掛け算で、より有効な活動を目指しましょう。

久保田理事（重任）：脱炭素の推進だけでなく「公正な移行」を広く働きかけ、実現をめざしたいと思います。

服部理事（重任）：大切な役職を再び担わせていただきます。脱炭素アクションの熱い波、一緒に起こしていきましょう。

大野木理事（就任）：全国ネットと地域センター、地域センター間の情報共有と協働できるように尽力しますので、よろしくお願いします。

瀬尾監事（重任）：気候危機を実感せざるを得ない日々が続いています。取り組みをさらにいっそう一層進めて行きましょう。

杉江監事（就任）：取り巻く課題に対して、ともに議論しながら解決策を見出し、持続可能な未来に向けて挑戦していきましょう。

特別記念講演 スポーツ × 気候変動

スポーツはひとを熱狂させ、健康を維持し、地域をつくり、文化を醸成する私たちになくてはならないものです。豊かな自然環境と平和な社会のもとに、スポーツは普及してきました。気候変動の影響が顕著化する今、スポーツの世界にも気候変動の影響は表れています。地球温暖化防止全国ネットでは、私たちの社会が直面している気候変動とスポーツの関係について、一般社団法人 SDGs in SPORTS 代表理事の井本 直歩子 氏と一般社団法人 Future Innovation Lab 代表理事の五郎丸 歩 氏を招いて語り合いました。

まず井本 氏より、スポーツ界の気候変動アクションについて、ご自身がどう考えているのか、また世界や日本が今どう動いているか、お話しいただきました。

———— スポーツが受ける気候変動の影響

気候変動が起こることで 1 番ダメージや影響を受けるセクターの 1 つは、スポーツだと思っています。雪がなくなることやスキー場が閉鎖されたり、大会が開催できなくなったりするなど、競技自体の存続が難しくなっています。夏のスポーツも、7 月～9 月は命を落とす人が出るのではないかと、という程の暑さになっています。このような現状について、「自分たちは被害者だ」と思っているスポーツ関係者は多いのですが、実はスポーツの大きな興行をする時に、スタジアムの建設、管理、観客の移動、グッズ販売など、すべてにおいて非常に多くの二酸化炭素排出に繋がっているのです。このようなことが影響して、災害が起き、何年も掛けて準備してきた大会も中止になってしまう可能性があります。自分たちは被害者でもあり加害者である、と私は考えています。しかし、スポーツの持っているポテンシャルは危機的な状況にある気候変動において、希望を抱かせるようなセクターであり、コンテンツであると私たちは思っています。

———— スポーツ × 気候変動の国際的な動き

現在 IOC は、スポーツ団体が排出する温室効果ガスを 2040 年までに正味排出量ゼロにする、という目標をかかげ、その目標に向かって進んでいます。今 IOC や FIFA、プレミアリーグなどの国際団体がこの枠組みで動いています。これらのスポーツ団体では、サステナビリティ・オフィサーだけでなく、チーフ・マーケティング・オフィサーなど、あらゆるトップの方たちが集まり、大会やチームの動きで、利益を追求しながら、どう温室効果ガス排出量をゼロに近づけるか、という国際会議を年に何度も行っています。リバプール FC の例を少しお話させていただきます。リバプール FC は、スタジアム敷地内で養蜂を行ったり、多

様な植物を育て、そこで出来た野菜を選手たちが食べたり、サステナブルな方向に移行を進めているチームです。また、ケータリング、チームやスタッフの移動、物品販売などに係る二酸化炭素排出量を全て見える化しています。しかし、優勝して試合の数が増えると移動や物販が増える、そうすると二酸化炭素の排出量が増える、というようにチームが活躍すればするほど二酸化炭素の排出量が増えることが悩みだと言っていました。でも、それくらいシビアにやっているということです。

———— 日本での取り組みについて

日本でも東京オリンピック・パラリンピックを境にスポーツ界でも様々な取り組みを進めています。J リーグは、「Sport Positive League」への参画を発表しました。サステナビリティ 12 項目のアクションを数値化し、ランク付けをしていく取り組みで、2026 年 1 月から全 60 チームが参加します。また、B リーグも、「Hope PLANET VISION」を発表しました。これに対してビジネスが乗っていく変革を肌で感じました。このように、これから J リーグ、B リーグのチームごとに取り組みが進んでいきます。それぞれの取り組みに対し、地域のクラブと一緒に何か活動が出来るのではないかと考えています。ぜひ、今後注目して見てほしいと思います。



井本 直歩子 氏（元競泳日本代表）

「アスリートが語るサステナブルな未来」

続いて、五郎丸 氏、聞き手の服部理事も加わり、スポーツ × 気候変動について、なぜ向き合おうと思ったのか、またそこに対処しどう取り組んでいくべきなのか、お話ししていただきました。

———— 気候変動という問題に向き合おうと思ったきっかけはなんですか？

五郎丸 氏：日本財団の HEROs の中で、基礎講座から落とし込んでいただきました。その中で、「スポーツ」と「環境」は、かなり密接な関係にあると感じました。なぜかというと、こんな暑い中ではまずスポーツができない。このような状況で 1 番被害を受けるのは、子どもなんです。プロは時間や場所を選べます。ドクターが近くにいます。でも子どもは、空いている時しかグラウンドを使えない、ドクターもいない、環境が整っていない中で練習をしなくてははいけない。

そんな中で、親が子どもにスポーツをやらせたいと思いますか？我々スポーツ界は声をあげて、気候変動という問題に入っていくと、スポーツを選ぶ人たちが少なくなってしまいます。我々が子どもの頃とは状況が全く違うということを肌で感じているのが、私がここにいる理由です。

井本 氏：子どもに対して、ということに私もとても共感します。私の場合、水泳を辞めてすぐにアフリカに飛び込んでいったのも、困っている人を助けたいという想いからでした。その時は紛争が起こっていて、その紛争を解決しないといけなく、そのためには教育をしっかりすべきだと考え、20 年間教育支援に従事しました。しかし、2018 年にグレタさんの話が出てきた時に、やっていることをすべて投げ出してでも、今すぐにこの問題に取り組まなければ、次の世代に影響が出てしまう、と思ったことが行動の原動力になりました。

———— 先ほどの井本 氏のお話の中で、J リーグや B リーグの事例をご紹介いただきましたが、それ以外のスポーツ団体に取り組みを広げていくための工夫、また広げていくうえでの重要なポイントを教えていただけますか？

井本 氏：スポーツ界も全くお金がないので、正直とても難しいです。削って削って活動をしている状況において、どのようなことが出来るのだろう、と模索しているところです。

まず、ビジネスとの共走、プロスポーツ中心に行い、今までスポーツと関係がなかった新たなパートナーと一緒にカーボンニュートラルの世界に向かっていけるよう、単位を大きくした考え方を広めたいと思っています。

また、大会を運営する際に、どのような取り組みをして環境負荷を下げるか、という課題を競技力向上と一緒に考える文化を作っていけたら、と思います。

五郎丸 氏：私は掛け算だと思っています。気候変動を訴えても届かない人たちがたくさんいる中で、かけ合わせることで興味関心を持ってもらうことが多いと思います。

2025 年 11 月に、静岡県磐田市で音楽フェスを開催します。開催に向けて、5 月から子どもたちの環境プログラムを行っています。

普通のフェスでは当日しかボランティアは募集しないし、環境についても当日しか学びません。それでは意味がないと思っています。なので、月に 1 回、平田仁子さんや井本さんに、講演していただきインプットする。インプットした中で自分たちがどうアクションしていくか、というのを子どもたち自身に考えてもらう。そうすることで自分ごとになっていく、それが大事だと思っています。

このようなかけ合わせが気候変動の中でも起されれば、面白い世界が作れると思います。

———— 実際にかけ合わせた活動をしてみて、どのような手ごたえを感じましたか？

五郎丸 氏：今の子どもたちは学校で SDGs の授業があるので学んではいますが、アウトプットする場所がありません。ラグビーでいうと、練習はたくさんするのに試合がないようなものです。なので、試合＝フェスという場所を作ってあげることで、子どもたちも興味関心を持ってくれています。

———— 最後に、気候変動に対して活動をしている方に向けて一言メッセージをお願いします！

五郎丸 氏：まだ気候変動について学んでいる最中ではありますが、自分ができること、次世代の子どもたちに出来るアクションをしていきたいと思っていますので、お力添えいただければ嬉しいです。

井本 氏：ぜひ皆さんの力をスポーツに貸してください！



地域の活動紹介 ゼロカーボンビレッジ創出 株式会社球磨村森電力



熊本県球磨郡にある球磨村は、豊かな自然と観光資源を持つ一方、人口減少による地域経済の縮小という課題を抱えています。そんな球磨村で電力事業を行う株式会社球磨村森電力が脱炭素チャレンジカップ 2025 において、見事環境大臣賞グランプリに輝きました。

球磨村森電力では、役場や学校などの施設に備えた蓄電池付太陽光発電設備により蓄電池に充電した昼間の余剰発電分の電力を夜間に供給する仕組みで、村内の電力需要の大部分を再生可能エネルギーで賄うとともに、その事業収益を地域商品券の発行や村有施設の修繕などの形で地域に還元する取組をしています。球磨村は令和 2 年 7 月には豪雨災害があったことが記憶に新しい地域ですが、この太陽光発電設備の蓄電池は災害時の避難所や行政機能の維持に必要な電力確保に有用であり、地域の災害レジリエンスの強化にもつながっています。

これらの事業は球磨村だけでなく、同様の課題を抱える地域にも波及しており、球磨村森電力のノウハウが移転された地域も増えています。球磨村の地域課題の解決や産業の発展について、そして今後の展望について球磨村森電力の代表取締役中嶋崇史氏にお話を伺いました。

まずはじめに、株式会社球磨村森電力の設立の経緯を教えてください。

球磨村には豊かな森林、球磨川や球泉洞など魅力的な観光資源がありますが、人口減少による地域経済の縮小という大きな課題があります。こうした課題に対して、再生可能エネルギーの導入検討、地域の子どもの環境学習機会の提供、商店など業務施設の省エネ診断などの事業を“単発”として行ってきました。こうした取組は、“継続”して価値があるものですが、事業の関係上、“単発”でしか行うことができない課題がありました。そこで、継続して地域での取組を行っていくために、球磨電を2018年2月26日に設立しました。

地域脱炭素事業を進めて行く上で重要なことは何でしょうか。

球磨電が進める地域脱炭素事業の特徴は、“エネルギー事業の収益”を使い“エネルギー事業以外の価値を創造する”、という点にあります。重要な点は、「俯瞰すること」と「熱量を伝播すること」を通じた「共感軸の創造」にあります。多くの方々にとって、脱炭素は日々の生活に直結しません。そこで昨今、「脱炭素を地域課題解決に繋げる」という考え方が出てきています。球磨電では「地域課題解決を脱炭素に繋げる」という考え方をしています。「脱炭素は地域課題解決の結果として付いてくればいい」という考え方です。



木質バイオマス施設



脱炭素チャレンジカップ 2025

「俯瞰すること」で脱炭素に縛られない視点で地域課題を見る、その地域課題を自らで解決しに行くという「熱量を自分以外にも伝播する」、その伝播により取組を進める上での共感が生まれ、「共感軸が創造されていく」というアプローチを時間がかかってもすることが重要であると考えています。



環境学習@球磨川清流学園北校舎屋上

周辺地域への展開や球磨村森電力が目指す今後のビジョンについてお聞かせください。

球磨村以外では、熊本県あさぎり町・五木村・熊本市、福岡県直方市・宮若市・遠賀町・北九州市、島根県雲南市に事業展開をしており、他にも多くの自治体と連携を進めています。今後は、集落の困りごと解決など生活に密着したコミュニティエンゲイジメント事業を強化し、“エネルギー事業の収益”を使い“エネルギー事業以外の価値を創造する”ことを実現していきます。

最後に、脱炭素チャレンジカップに応募を検討される方にひとことお願いします。

授賞式に参加した際に多くの事例発表があり、球磨電としても取り入れたいものを見つけたことができました。他の方々との連携を深め、自らの取組をレベルアップする視点を持ついい機会になると思います。

令和7年度（第12回）うちエコ診断士資格試験を実施します

令和7年度の「うちエコ診断士資格試験」は、2025年9月1日から2026年1月30日にかけて実施します(申込期間：2025年7月22日～2025年12月26日)。例年通り CBT 形式で行われ、全国 47 都道府県にある約 300 か所以上の会場で受験が可能です。



うちエコ診断士資格試験の実施について

試験では、気候変動問題に関する最新の動向や、家庭で実践できる地球温暖化対策についての実用的な知識を習得できます。うちエコ診断士を目指す方はもちろん、気候変動への理解を深めたい方や、身近な省エネ対策を学びたい方にもおすすめです。

資格試験に関する最新情報は、ポータルサイトにて随時掲載します。



うちエコ診断士資格試験公式テキスト『地球温暖化と家庭でできる eco』は、「基礎編」と「実践編」の2冊構成で、現在販売中です。

「基礎編」では、地球温暖化の基本的な背景や国内外の動向、家庭における効果的な温暖化対策などについて解説しています。一方、「実践編」はうちエコ診断士として実際に活動するために必要な知識や技術が身につく内容となっています。

なお、「基礎編」は資格試験対策だけでなく、地球温暖化問題を学びたい方の自主学習や、セミナー・勉強会の教材としても広く活用されています。価格は以下の通りです。

・基礎編：2,200 円（税込） ・実践編：1,650 円（税込）
※別途送料がかかります

←テキストのお申込はこちらから

EXPO グリーンチャレンジアプリ × うちエコ診断

2025年大阪・関西万博では、環境配慮を楽しみながら実践できる「EXPO グリーンチャレンジアプリ」が活用されています。日常の省エネ行動でポイントを獲得し、抽選で景品と交換することができます。

うちエコ診断を受診すると、対面診断で 2,000 ポイント、WEB 診断で 500 ポイント獲得可能です。また 2023 年度の実績では、CO₂を年間約 1.5 トン削減し、光熱費も年間 6～8 万円節約できる効果が確認されています。

万博に行く人も行かない人も、まずはうちエコ診断を受診してみませんか？

ご家庭の状況を詳しく知りたい方には対面診断もおすすめです。



万博 Googleplay



万博 applestore



うちエコ診断 WEBサービスはこちらから



対面診断の受診申込はこちらから



エコアンバサダー®
櫻田彩子のミニコラム

京都府から京都府地球温暖化防止活動推進員委嘱式でお話しする機会をいただき、背筋がピシッと伸びました。恐縮なことでしたが京都の皆さんにも、長くご指導をいただいております。少しでもご恩返しになるよう心からエールを送りました。感銘を受けたことがいくつもありました。

- ・推進員さんは20代から90代の方までという多世代！
- ・80代の方は6期12年続け、年60回！も環境活動を行っている。
- ・90代の方は電気の専門家で、太陽光発電の普及を続けている。
- ・初めての方も多く、長く続けたいという20代の方は植物の研究者。

京都議定書の地であり、気候危機への取り組みを受け継ぎ、足元を大切に気運を醸成、世界に発信し続けてきた地域。京都の委嘱式は推進員の皆さんが次世代のために活動が続けよう！という熱い思いの宣言でした。京都の皆さんの活動や心意気は、他地域の仲間へのエールにもなると感じます。自分に喝！が入りました。



やる気元気！京都推進員の皆さん

スタッフ紹介

事業部事業推進課 村岡龍岳

2025年4月に入職いたしました。事業推進課の村岡と申します。前職では環境省の大雪山国立公園管理事務所に勤務し、自然保護管補佐として公園の維持管理等に携わっていました。職務に携わる中で高山植生の変化や万年雪・永久凍土の減少など、気候変動の影響を現場で感じてきました。趣味は語学と古本屋巡りで、旅先では地元の本屋を訪ねることを楽しみにしています。前職を退職後に訪れたアゼルバイジャン・バクーでは、COP29 閉幕から時間が経っても街にその余韻が残り、気候変動が身近な話題として存在している印象を受けました。今後も幅広い視点を持って業務に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



脱炭素チャレンジカップ2026 エントリー募集

／全国の参加者たちが新たな出会いを待っています／



脱炭素チャレンジカップは全国各地の脱炭素のための取組を表彰し、その取り組みを広く世に伝えている大会です。学校・企業・自治体などで取り組む地域の自慢の脱炭素活動で大会にエントリーをしてみませんか？活動する仲間たちとエールを送り合い、新たな活動を生み出していきましょう！

●エントリー部門

4つの部門から団体でエントリーしてください。

市民部門

企業・自治体部門

学生部門

ジュニア・キッズ部門

エントリーシートのダウンロードはコチラ



●開催概要

日時：2026年2月20日（金）

会場：日本科学未来館（オンライン配信あり）

エントリー期間：2025年7月～9月末

審査：①書類審査 → ②プレゼンテーション審査

上記の審査を通過した団体がファイナリストとして大会に招待されます。

●お問合せ先

脱炭素チャレンジカップ事務局（地球温暖化防止全国ネット）
平田・石尾・ハンサナ

TEL：03-6273-7785 E-Mail：zccc@zenkoku-net.org

編集後記

6月19日に行われた特別記念講演では、五郎丸さん、井本さんより「スポーツ × 気候変動」についてわかりやすく、記憶に残るお話をお聞かせいただきました。まだご覧になられていない方はアーカイブが残っていますので、ぜひご覧いただければと思います！



（管理部 経営管理課 岩本彩夏）

賛助会員募集中にゃ〜



一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの活動をサポートしてください！！

年会費：個人会員 10 5,000 円
団体会員 10 20,000 円

地球温暖化防止全国ネット通信

第45号 2025年7月

【編集・発行】

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット（JNCCA）
〒102-0074 東京都千代田区九段南3-9-12
九段ニッカナビル7階
TEL：03-6273-7785
<https://www.zenkoku-net.org/>

【デザイン編集・編集】
脱炭素社会推進部 事業推進課
齋藤敏明

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます。この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。